

2024年春、姫路市在住の岸本眞五氏（ひと はく地域研究員、兵庫古生物研究会代表）から約13,500点の化石標本をご寄贈いただきました。同氏は、当館の設立準備室時代から多方面で協力していただいている方で、過去にも重要な発見のたびに標本を寄贈されています。すでにご寄贈いただいていたものと合わせると、標本の総数は約14,000点にのぼります。

ご寄贈いただいた標本は主に、岸本氏ご自身が約60年にわたって全国1道2府29県で採集されたものです。その中でも、同氏が精力的

に調査を続けてこられた淡路島の和泉層群産の標本（写真1）や岡山県津山盆地の勝田層群産の標本（写真2）は特に豊富で、地層の露出状況などの理由で現在では入手が難しいものや、ごく稀にしか産出しないものも含まれています。標本にはいずれも丁寧なクリーニング作業が施されているうえ、標本本体に正確な産地情報が記入されているため、学術研究にも利用できます。

岸本氏のコレクションが加わったことで、人と自然の博物館に収蔵されている国内産の化石標本は飛躍的に充実しました。今後、いただいた標本の整理・登録作業を進め、展示や研究に積極的に活用していく予定です。

生野 賢司（地球科学研究グループ）



写真1 アンモナイト類(左上、右)とヒトデ類(左下)



写真2 様々な成長段階のピカリア(巻貝)

2023年度に新たに設置された地域連携推進室では、県内各地の教育施設や公園などの連携を強化して、地域の自然・環境・文化に関する研究成果の還元に取り組んでいます。

2024年度からは、各地の機関や施設と協働で開催するスペシャルなセミナー「ひと はく地域連携セミナー」が始まりました。5月と6月に南あわじ市で実施した回（写真）は、地域住民の方を中心に定員を超える参加申込があり、天気にも恵まれ、好評のうちに終了しました。

参加者の方に何うと、「自宅から近い場所でも用事がないと足を運ばないので、身近な自然に触れるよい機会になった」、「何度も訪れたことのある場所でも、専門家と一緒に歩くと見え方が変わって楽しめた」といった感想をいただきました。

これからも、研究員の専門性を活かして地域の自然の価値や魅力を伝える取り組みを続けていきたいと思います。

生野 賢司（地域連携推進室）



5月に南あわじ市で実施した植物と岩石の観察セミナー



6月に南あわじ市で実施したクモの観察セミナー



ひと はく恐竜ラボ

兵庫の古生物学を支える拠点

